

2022 年度弘陵造船航空会交流会 報告
(第 52 回総会、イベント及び第 45 回講演会)

1981 年(昭和 56 年)卒 山本規雄

2022 年度弘陵造船航空会・交流会が、2022 年(令和 4 年)5 月 21 日(土)13:00 から開催されました。本年度も、昨年同様コロナ禍のため、“Zoom”によるオンラインでの開催となりました。

今回の交流会の司会進行は、事務局のご指導・ご支援の下、担当年次である 1981 年卒のクラス幹事の山本規雄が担当しました。

本報告を行うにあたり、交流会の準備・運営に多大なご指導とご支をいただいた、阿部会長をはじめ役員・事務局の方々に心より御礼を申し上げます。

以下に交流会の報告をいたします。

1. 開催日時 2022 年(令和 4 年)5 月 21 日(土)13:00~15:55
2. 開催方式 “Zoom”によるオンライン開催
3. 参加者 総会 34 名、講演会 41 名
4. 第 51 回総会 13:00~15:50
(14:25~14:45 深澤麻里様による、ビオラ・ヴァイオリン演奏のイベントがありました)

(1) 逝去者の報告と黙祷

開会の辞に続き、2021 年 6 月から今回の総会までに、事務局までご逝去の連絡をいただいた、40 名の会員のお名前を報告し、出席者全員で黙祷を捧げました。

(2) 阿部会長挨拶

議事に先立ち、阿部会長からご挨拶をいただきました。その概要は以下のとおりです。

- 2020 年度及び 2021 年度とも、新型コロナの感染拡大影響により、主な活動は Zoom あるいは中止となったが、特徴的な実施活動として、困窮学生への一時金支給、メーリングリスト「弘陵広場」の開設、活性化会議の開催があげられる。
- 絶えず変革がないと組織は衰退するとの考えから、いろいろな活動を行ったが、まだ緒に就いたばかりの感がある。
- 活動を行うにあたり協力いただいた関係各位に感謝申し上げるとともに、新執行体制への協力をお願いする。

(3) 2021 年度活動報告及び会計報告

堀沢理事より、2021 年度活動報告に関する説明、および、飯島理事より、2021 年度会計報告に関する説明がありました。

会計報告に対し、会報発行費の削減案としてネットでの印刷という方法もあるとの意見が出、今後収益の悪化が生じた場合は、そのような方法も考えるところであった。

報告に対し、特に意義はなく、2021 年度活動報告、および、会計報告は承認されました。

(4)2021 年度活動会計監査報告

小林監事より、2021 年度会計監査に関し、問題ないことを確認した旨、報告がありました。

(5)2022 年度活動計画案

堀沢理事より、2022年度活動計画案に関する説明がありました。特に、同窓会活動活性化方策の実施案について詳細な説明がありました。

活動活性化策について、

- 学生との情報交換がしっかりと実施されれば良い
- 地方同窓会開催が活性化の参考になる
- 学生との意見交換の交流は、比較的若いOBとの交流のほうが学生としてやり易いのでは

等の意見がありました。

報告に対し、特に意義はなく、2022 年度活動計画案は承認されました。

(6)2022 年度予算案

飯島理事より、2022年度予算案に関する説明がありました。

報告に対し、特に意義はなく、2022 年度予算案は承認されました。

(7)2022 年度役員人事

阿部会長から、以下の役員人事案が提案されました。

役 職	氏名(敬称略)	横浜国立大学卒業年次等
理事・会長	飯島 正明	1975(昭和 50)年学部卒業
理事・副会長	脇屋 元	1979(昭和 54)年学部卒業
理事・教室代表	川村 恭巳	教授、海洋空間のシステムデザインEP 教室主任
理事	鳥海 憲彦	1975(昭和 50)年学部卒業
理事	斉藤 政男	1978(昭和 53)年学部卒業
理事(再任)	堀沢 真人	1980(昭和 55)年学部卒業
監事(再任)	佐伯 愛一郎	1975(昭和 50)年学部卒業
監事	真島 篤	1979(昭和 54)年学部卒業

これまで会長を務められた阿部 孝三氏(昭和 47 年卒)には、相談役への就任はされませんが、弘陵造船航空会の活動に引き続き、アドバイザーとしてご協力頂けるということです。

2022 年度役員人事案は、意義なく承認され、新任役員の方々、および、退任される役員の方々から、一言ずつご挨拶をいただきました。

(6)大学(教室)の近況及び弘陵賞受賞者紹介

川村教室代表理事から、教室の歴史、教育・研究体制、教員の状況についての説明がありました。

学生の就職状況について、以下の報告がありました。

- 学部卒業 42 名中、15 名(造船4、海運1、自動車2、機械・建設等4、情報通信等3、金融1)が就職、27 名が大学院進学、
- 大学院博士課程前期修了者 21 名中、15 名(船級協会1、造船1、海運1、自動車等2、建設1、機

械・電気・エネルギー等4, 情報通信等4, 官公庁1)が就職、進学4名、社会人学位取得1名

- 博士課程後期修了者4名中、社会人学生学位取得4名

海外派遣プログラムは中止となったが、上海交通大オンラインサマースクールに13名が参加した、との説明がありました。

同窓会からの奨学金が6名に給付されたことに対する、謝意が述べられました。

新型コロナの感染拡大影響により、弘陵賞のポスターセッションがオンラインで行われたとの報告に関し、オンラインで行われたことによりかえって交流がうまくいったとの感があるため、新型コロナの感染拡大終息後も、ハイブリッドでの開催が検討されればとの意見があり、そのような意見も考慮して開催したいとのことでした。

(7)会報第62号目次案

会報第62号目次案について、堀沢理事から説明がありました。

特に意義はなく、目次案は承認されました。

以上をもって、弘陵造船航空会第52回総会は閉会しました。

5. イベント 14:25~15:50

深澤氏(昭和52年卒)のお嬢様であられる、深澤麻里様による、ビオラ・ヴァイオリン演奏を鑑賞いたしました。

深澤麻里様は、現在、ケルン WDR 管弦楽団のビオラ奏者としてご活躍されており、同楽団のヴァイオリン奏者であるリッカルド・カラチャーニ様との共演で、以下の曲の演奏をしていただきました。

- テレマン作曲、「12のファンタジー」より、第7番、第1, 2楽章
- モーツァルト作曲、「ヴァイオリンとビオラのための2重奏番ト長調 K.423」より、第1楽章
- ピート・シーガー作曲、深澤麻里様編曲、「花はどこへ行った」
- 「ふるさと」

大変穏やかな曲ばかりで、心温まる演奏でした。

6. 講演会 14:55~15:55

第45回講演会は、鳥井正志氏(昭和56年卒)より、「船と土の間で」と題して、鳥井さんが卒業後就職された、新日本製鐵(現 日本製鉄)、日鉄エンジニアリングで長年関わってこられた、海洋施工設備技術、海洋施設のエンジニアリング・プロジェクト計画、に関連する業務経験のご紹介を頂きました。

特に浮体構造物の係留関連、メガフロート開発時のドルフィン係留関連に興味あるお話を聞くことができました。メガフロートに関しては、弘陵造船航空会OBで関係した方々も多く、多くの方々に興味を持っていただきました。

メガフロート浮体空港モデルの後利用について、南あわじ市の海釣り公園メガフロートにおいて、浮体と係留ドルフィンが揃って利用されているとの紹介がありましたが、海洋構造物で船舶海洋工学会の船遺産になった事例はないので、是非、船遺産として残したいとの要望があり、船遺産としての登録を検討したいとのことでした。

最後に、脇屋新副会長から閉会の辞として、関係者の方々のいろいろなエピソードも含めて楽しんでいただけたこと、今後も、クラス幹事会等でミニ講演会も企画するので、テーマの希望があれば事務局まで連絡いただきたい、とお話がありました。

以上